

(5) 歴史と文化教育部会

教育部会名	歴史と文化
部会長名／作成者名	緒形康
概 要 (2 ページ)	
<p>(1) 組織・運営について</p> <p>(1-1) 部会構成：本年度の歴史と文化教育部会は、人文学研究科・国際文化学研究科・人間発達環境学研究科（人間発達専攻表現系講座）の教員によって構成され、日本史・西洋史・東洋史・アジア史・美術史・芸術史・科学史・考古学の各授業を提供した。</p> <p>(1-2) 実施体制：部会長、ならびに部会長が所属しない二研究科から選出された幹事が実施の任に当たった。</p> <p>(2) 実施状況について</p> <p>(2-1) 教育内容：シラバスに見る通り、歴史と文化教育部会が扱う対象は、時代についても、地域についても、きわめて多岐に亘り、多様性に富んでいる。また、狭義の歴史学のみならず、美術・芸術・科学技術・政治経済に関わる事象の歴史的側面を主題にした授業科目を用意している。</p> <p>このように、本教育部会が提供する教育内容は、各教員の多様かつ学際的な研究テーマを反映しており、学生のさまざまな関心やニーズに応えるものとなっている。さらに、本学のグローバル人材育成推進事業が達成目標として掲げる二つの課題、すなわち、「多様な価値観を尊重する」、「異文化・日本文化を深く理解する」という課題を身に付ける上でも、効果的なカリキュラムを提供している。</p> <p>(2-2) 教育方法：授業の形態は講義形式が中心である。授業振り返りアンケートの回答は、概ね、授業の内容が有益であったとするもので、授業に対する高い満足度を示している。教員の側においても、アンケート結果に付せられたコメントや感想欄を十分に活用して、学生のニーズに応えるような授業改善を試みる姿勢が顕著である。</p> <p>(2-3) 今年度の工夫・改善点：本年度の歴史と文化教育部会の授業は、コロナウイルス感染予防の観点から、その全てを「遠隔型授業」とした。自己点検・評価報告からも分かる通り、本部会で授業を担当した教員のほとんどが、「遠隔型授業」において、リアルタイム型を中心に、そこにオンデマンド型、あるいは一部対面型を加えるという授業形態を選択していた。</p> <p>その際、これまで授業前後の時間やオフィスタイムを使った質疑応答を、LMS BEEF のチャット・小テスト・フォーラム・アンケートといった機能によって代替する中で、多少の混乱が生まれ、成績評価がどうしても高めに振れてしまうことが避けられなかった。</p>	

「遠隔型授業」が常態化する中で、それらを、これまでの対面型授業とどう効果的にクロスさせるか；学生に対するフィードバックを授業の中で如何に的確に行うか；公正かつ適正な成績評価をどのように確立するか、といった諸問題を改善してゆくことが今後の課題である。

(2-4) 現状と評価：歴史と文化教育部会の共通目標を、各教員は良く理解し、適切な授業運営がなされているのが現状である。また、学生のニーズの検証や成績評価の公正性については、授業振り返りアンケートなどを活用したフィードバックが適切になされている。その結果として、学修目標に見合う適切な学修成果が得られている。

(3) 教育部会の今後の課題

本年度より施行を始めた「遠隔型授業」のより適切かつ効果的な運用を確立することが、歴史と文化教育部会としての最重要課題となろう。その際、高等学校の学習指導要領に示された歴史教育の新たな目標、すなわち、史資料・図象・映像などを駆使した歴史的事象の総合的な理解と学修という目標を、大学の共通教育において、どのように継承・発展させてゆくかという課題を、合わせて考えてゆく必要がある。「遠隔型授業」にさまざまな工夫を加え、映像や音声を組み合わせた多様な教材を学生に提供する中で、対面型授業とのさらなる相乗効果を期待できるような授業形態を、歴史と文化教育部会として探求してゆきたい。

(4) 総合所見

歴史と文化教育部会は、全体として良くバランスの取れた多様な授業を提供している。そのことを反映して、授業振り返りアンケート結果における授業の理解度・総合評価も高い。構成員が三つの研究科に跨ることは、意思疎通の面で若干の困難をもたらしているが、歴史学に対するアプローチが三つの研究科で異なることは、「遠隔型授業」のより多様で効果的な実施運営といった問題を処理する上で、かえって強みに働く可能性を秘めていると言えよう。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100字程度）

人文系・国際文化系・発達系という三つの組織に所属する教員から成り、それぞれの系から幹事を選出、内一人を部会長に当てており、組織構成・実施体制・運営体制ともに適切に整備され、機能している。

根拠資料

教育部会構成員名簿、メールでの連絡

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか（100字程度）

授業振り返りアンケート結果を、それぞれの教員が各担当授業科目に十分に反映させるなど、内部質保証のための取組を教育部会として組織的に行っている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150字程度）

前年度までの自己点検・評価報告書を踏まえ、各教員が、シラバス・期末課題・小テストの改善、修正といった措置を講ずることで、計画された取組を進捗させている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

- ③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか（100字程度）

ピアレビューを実施し、そこでの討論から授業内容・方法の改善を図るというプロセスを重視している。

根拠資料

ピアレビュー（授業参観）実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧（国際教養教育委員会資料）

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるときともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100字程度）

実施している。ただし、本年度はコロナウイルス感染予防の観点から、本部会の授業科目の全てが「遠隔型授業」となったため、教育支援者や教育補助者の活用は、例年よりは少なかった。

根拠資料

神戸大学 SA/TA 実施要領・ガイドライン、SA・TA 採用者名簿、TA ハンドブック

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100字程度）

各教科の授業の目標は、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっている。

根拠資料
シラバス

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100字程度）

各授業担当者は、シラバスの到達目標の中で、共通目標や学部からの要請を考慮しながら、到達目標をそれに沿ったものにする配慮を行っている。

根拠資料
シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100字程度）

授業科目の内容は、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっている。

根拠資料
シラバス

- ④単位の実質化への配慮がなされているか（100字程度）

シラバス、小テスト、中間・期末レポート課題などによって、単位の実質化への配慮がなされている。

根拠資料
シラバス、小テスト、中間・期末レポート課題

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150字程度）

講義、演習の授業形態の組み合わせ・バランスを適切に図り、各教科の教育目標に照らしながら、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされている。

根拠資料
シラバス

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50字程度）

シラバスには、上記の全項目が記載されている。

根拠資料
シラバス

- ⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100字程度）

学生のニーズに応えるべく、履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われている。

根拠資料
シラバス

- ⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100字程度）

授業前後の質疑応答やオフィスアワーの周知など、学生に対する適切な指導、助言がなされている。

根拠資料
シラバス

- ⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100字程度）

授業科目ごとに、成績分布を対照させ、分布の状況が適切なものであるか否かを確認した上で、改善すべき場合は、その旨、周知している。

根拠資料
シラバス、試験答案、成績分布（国際教養教育委員会資料）

- ⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100字程度）

レポートなどのコメント欄や授業振り返りアンケート結果を通じて、適切な学修目標が得られているかどうかを確認している。

根拠資料
レポートなどのコメント欄、授業振り返りアンケート結果